



いがおえ工食

夏はやっぱりシュノーケリングでしょ！
夏の海へレッツGO!!

ニックネーム: _____

本誌へのメッセージ: _____

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

きりとり

ほっとニュース

患者さんを対象とした卓球大会について

去る3月24日、当院体育館にて毎年恒例の院内卓球大会が開催されました。本大会は当院入院中または当院デイケアを利用中の患者さんを対象としており、今年は64名もの患者さんによって上位入賞を目指した熱い戦いが繰り広げられました。つづいて4月9日には三重県下精神科病院対抗親善卓球大会が開催され、選手の方は全力を尽くされ、応援に同行した他の患者さんや職員らとも一丸となって充実した時間を過ごすことができました。選手の方から「勝つことではなく精一杯がんばることが大切」といった言葉が聞かれ、とても印象的でした。こうした入院患者さんを対象とした県下スポーツ大会は、精神科医療における長期入院患者の高齢化・病床数減少・外来中心の流れといった社会事情のなかで年々縮小傾向にあります。今後も時代に合わせつつ、障害を抱えた方々が社会に参加したり生活目標に向けて努力しつづける機会を得、充実した生活をおくることができるよう、支援を続けていきたいと思っております。



●外来診療担当医表 (6月30日現在)

		月	火	水	木	金
午前	初診	高山	中瀬	交代制	野村	交代制
	再診	中瀬	山本	川喜田	西浦	
午後	初診	中澤	宇野	林	河合	14時~ 山本
	再診	河合	西浦	野村	高山	

※診療担当医は7月中旬に変更します。ご承知おき下さい。

理念 ささえあい、ともに生きる

基本方針

- 患者さまや地域の皆さまに、信頼され選ばれる病院づくりを行います。
- 患者さまが地域で快適な生活が送れるよう、積極的にサポートします。
 - 患者さまの人格を尊重し、きめ細かく配慮します。
 - 患者さま一人一人の治療プランに添った医療を行い、一日も早い家庭・社会復帰を目指します。
- 地域におけるメンタルヘルズに積極的に取り組みます。
 - 医療の質向上に向けて日々研鑽を積みみます。

編集後記

今号は「看護実習」などをお伝えしました。さて、5月31日に開催を予定しておりました「看学祭」ですが、新型インフルエンザの警戒レベル「フェーズ6」への引き上げ検討も行っていたことを受け、中止となりました。ご迷惑をおかけ致しました。この場を借りて深くお詫び申し上げます。

TEL・059-382-1401 (代表) FAX・059-382-1402
Eメール・info@skh.miekosei.or.jp

三重厚生連 鈴鹿厚生病院

第18号

2009.7月

発行/三重県厚生連鈴鹿厚生病院
編集/TCK 名古屋
所在地/三重県鈴鹿市岸岡町589-2
TEL/059-382-1401
ホームページ/http://www.miekosei.or.jp/skh/

ともに生きる… Live with すずか

地域の皆さんのお役に立ちたい情報誌

実習が看護学生を大きく育てます。

看護学生は実習で、患者さんの不安や苦痛や回復の力などを知り、学内で勉強した知識や技術をもとに実践力を伸ばします。

学内演習:看護に必要な実践技術を学内で習得します

実習:学んだ知識・技術をさらに磨き、患者さんとのコミュニケーションをも学ぶ重要な機会です(厚生労働省より)



看護学生を受け入れています

当院は、主に厚生連看護専門学校・三重看護専門学校からの臨床指導を受け入れています。平成21年度より聖十字看護専門学校・四日市看護医療大学からも新たに受け入れており、将来の看護師を実習という場のもとに、指導しております。

学生に、効果的な臨床指導を行うため各病棟臨床指導者を中心に、各学校と連絡・調整を行い、実習環境を整え、目標達成のための行動がとれる様に、臨床指導者委員会をひらき、師長1名・主任2名・各病棟委員2名で活動しています。

病院祭・運動会等機会があれば、看護学生も参加して、患者さんの24時

間のうち一部を学生自身が体験できるいい機会と思い、参加していただいています。

「実習が看護学生を大きく育てます」を念頭に、チーム医療の大切さ、コミュニケーションの必要性を理解していただけるよう、将来看護師になる看護をサポートして、共に学び・考え指導していきたいと思っております。

第4回 運動会が5月21日に開催されました。

今回で4回目となる運動会ですが、やはりグラウンドで行われる行事ですので気になるのは天気。一週間前の天気予報がなんと事もあろうに開催日ははさんで三日連続で雨の予報…

が、しかし当日に近づくにつれ天気予報が変わってきてくれて曇り空ではありましたが雨に降られず無事最後まで開催できました。(なんか去年もこんな感じでしたが…) 内容、種目競技は勿論の

事、競技以外にも職員による「よさこい」や「バンド演奏」、恒例の「仮装行列」で楽しまれ、そして最後にエキシビジョンとして今年は「職員年齢別対抗リレー」を企画。大いに盛り上がりましたが普段の運動不足を目の当たりにしました(笑) 尚、患者さんの競技では個人競技と東西対決競技に振り分け東西対決の種目では去年に引き続き40対20で今年も東軍の勝利となりました。



心の健康セミナー 誌面版

心の健康セミナー誌面版は皆さまに精神科病院や病気をテーマに沿って毎号連載し解説していくコーナーです。

毎号
連載!

テーマ お酒の飲み過ぎについて

昔から「酒は百薬の長」と言われることもあります。一方「酒は万病の元」とも言われます。お酒は適量であれば人間関係を円滑にしたりストレスの解消にもつながりますが、飲み過ぎると気付かないうちに重大な結果をもたらしてしまっているということがあります。

節度ある適度な飲酒とは

お酒による問題行動や臓器障害などがない場合に限って、節度ある適度な飲酒とは成人日本男性において1日ビールで500ml・日本酒で1合弱程度です。女性や高齢者・お酒に弱い人はこれらの量より少ない量が適当です。また、薬を服用している人は薬の作用が強まることが多いので飲酒はよくありません。

お酒の飲み過ぎによる悪影響

◆体への悪影響

お酒を飲み過ぎると肝臓が悪くなるというように単純なものではありません。以下にお酒の飲み過ぎによって生じる病気を羅列します。脂肪肝・肝炎・肝硬変・膵炎・食道炎・食道癌・胃潰瘍・小腸での吸収障害・心筋症・虚血性心疾患・高血圧・糖尿病・痛風・貧血・血小板減少(出血傾向)・多発神経炎・骨粗鬆症・脳萎縮など

挙げればきりがありません。まさに、多臓器病ですね。

◆心への悪影響

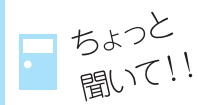
体への悪影響は病院での検査結果を示されれば分かりやすいのですが、心への悪影響は指摘されてもなかなか分かりづらいので受け入れられない場合が多いようです。お酒が切れたときに生じる動悸・不安・震えといった離脱症状だけではなく、睡眠障害・うつ・幻覚・妄想・認知症などといった症状がお酒の飲み過ぎによってもたらされ本人を苦しめていることがあります。

◆その他の重要な悪影響

お酒のために失職し経済的に立ち行かなくなったり、家庭不和や離婚となったり同僚や近所との人間関係もうまくいかなるによって、孤立してしまいさらにお酒を飲み悪循環に陥るといったことがあります。また、子供も情緒的に安定せずに成長してしまい、次の世代へと連鎖してしまうこともあります。

◆最後に

アルコール依存症の人は少なく見積もっても240万人いるとも言われています。お酒による悪影響がある場合はお酒を断つことが大切ですね。



第2回精神科クリニカルパス交流会が開催されました。

去る5月15日に第2回精神科クリニカルパス交流会が当院で開催されました。クリニカルパスは、医師・看護師だけでなくさまざまな職種のスタッフが協同して治療に関わり、治療の内容や時間的な経過、計画などをより明確にしていこうという活動です。医療の質を向上させるとともに患者さんや家族に対して治療内容をわかりやすく説明する目的があります。

当院では数年前から取り組んできましたが実際にはまだ十分に活用できていないと言えません。そこで同じようにこの活動を始めた県立こころの医療センターと当院で平成19年9月に初めての交流会を開催しました。



今回が2回目となる交流会には両院に加えて多度あやめ病院と久居病院からも参加があり、総勢50名となりました。最初に各病院における現状と課題を報告し、続いて「クリニカルパスを院内にいか周知する

か」というテーマについてグループワークを行いました。グループワークではひとつのテーブルを4病院からの参加者2、3名ずつが囲み、病院の垣根を越えて話し合いました。各病院とも本格的な活用はこれからですが、今後の活動に役立つ交流が持て、次の再会を約束して会を終えました。



クリニカルパスとは

特定の疾患や手術・検査ごとに治療のルーチンワークをチャート様式にまとめ、医師、看護師、コ・メディカル、患者が治療経過の情報を共有し、必要なケアを適時に患者に提供するためのツール。入院から退院までのケアの内容、ゴールが示されていることから、「知らない」ことによる不安がなくなり「安心感」が生じる。また患者と医療者が入院中のプロセスに対する理解を共有できることによりコミュニケーションが活発になり、信頼関係が強まり、その結果医療者への評価が高まる。

春の花フェスタを開催

4月8日(水)に当院にて春の花フェスタを開催しました。参加者は入院患者さん、外来患者さんで、約150名が参加されました。開催内容は、参加者による花壇への花の苗植えを中心とし、イベントとして、模擬店、職員バンド、職員よさこいなども行いました。また、今回は近隣保育園児にも参加してもらい、花の苗植えや遊戯も披露してもらいました。花の種類はペチュニアで約150苗を花壇に植えました。花フェスタは昨年度、春・秋と開催しており、今回で3回目の開催になります。開催後に花の水やりや手入れなどを自主的に行っている患者さんも見えます。また、昨年度参加者にアンケート調査を行ったところ、肯定的な意見が多く、患者さんの園芸活動に対する取り組み方の姿勢とモチベーションが高いことが感じられました。今後も花フェスタ開催に取り組んでいきます。 作業療法士 岡野 元保



院内百科 vol.10

防火対策委員会

防火対策委員会は独立した委員会としては開催されておらず、各所属長が集まる運営会議終了後に行われています。内容は年2回行われる防火訓練が主な議題となっています。万が一の火災のため、防火意識向上のため必要であると考えます。あいことば「火の用心!!!」



スマイリー・バトンリレー

vol
18

訪問看護ステーションあるく

「あるく」のスタッフ

訪問看護ステーションあるくでは、ご自宅を訪問し、地域で少しでも安心して生活を送っていただけるよう、よきパートナーとしてお手伝いをしています。

平成21年7月1日より24時間連絡体制から24時間対応体制に変わり、利用者さんの期待に応えられるようにスタッフ一同努力していきたいと思っております。